

Bコース①【介護と仕事の両立推進事業】

取組の実施状況

企業名	株式会社オプシス			
所在地	東京都千代田区有楽町1丁目2番2号			
業種	(L) 学術研究・専門・技術サービス業			
常用労働者数	12人			
事業内容	特殊写真撮影業			
ホームページ	https://opsis.co.jp/			
1 ニーズ調査				
① 実施日	令和7年 12月 17日			
②方法	アンケート用紙全従業員に手渡し配布			
② 回収率	対象者（都内勤務全従業員） 8名のうち回収数 8名 回収率 100 %（回収数／対象者）			
④調査結果概要	（調査により明らかになった課題） 1. 現在の従業員の介護状況 現在、介護を行っている従業員は 0 名であり、現時点で業務に直接影響する介護事案は発生していない。しかしながら、介護が顕在化していないことは「問題がない」という意味ではなく、潜在的なリスクが見えにくい段階にあると評価できる。 2. 今後の介護発生見込み 「将来的に介護の可能性がある」と回答した従業員は 2 名（全体の約 25%）。現時点で切迫性は高くないものの、4 人に 1 人が将来リスクを認識している状況であり、中期的には現実的課題となる可能性がある。 3. 介護制度の認知状況 全員が「制度の詳細は不明」と回答。さらに、会社として介護規程が未整備であるため、制度の存在自体が曖昧、利用方法が分からない、相談ルートが不明確という状態である。制度理解の水準は極めて低い段階にある。 4. 両立に関する不安 「非常に不安」と回答した者が 1 名（約 12.5%）。現時点では不安は限定的だが、潜在層（まだ現実化していないが不安を持つ層）が存在する。 特に制度未整備の状態では、不安が顕在化した際に一気に拡大する可能性がある。 5. 望ましい働き方・制度ニーズ 「両立できる取り組みを望む」6 名（75%）「仕事の仕方を変えない」1 名 「その他」1 名。多数派は柔軟な両立支援を希望している。 これは、現時点で困っていないくても、将来的な備えを求める傾向が強いことを示している。 （課題） ① 制度の未整備 介護規程が未作成であり、制度の基盤が存在しない。 ② 認知不足 全員が制度詳細不明という状況は、リスク発生時に混乱を招く可能性が高い。 ③ 潜在リスクの放置 現在介護者がいないため、優先順位が下がりやすいが、将来的な 25%のリスク層が存在する。 ④ 不安の早期顕在化防止 1 名が「非常に不安」と回答していることは、制度不在への警鐘とも捉えられる。			
2 プロジェクトチームの設置及び運営状況				
① 設置日	令和7年 12月 1日			
②メンバー	総計 2名（うち都内勤務の従業員1名） （メンバー内訳）社長、業務スタッフ1名			
③運営状況	開催日	開催時間	検討内容	参加者数
	12月 1日	11：30-11：30	活動内容及びスケジュールの確認	2名
	12月 22日	15：00-15：30	調査結果概要説明、取組案の提示	2名
	1月 4日	11：00-11：30	取組案についての意見交換、確定	2名

3 策定した取組計画（内容及び取組時期）
令和8年3月～ 定期的な個人面談の実施（年1回程度）
令和8年5月～ 介護と仕事の両立に関する研修の実施（年1回程度）
4 経営者・管理職への体験型研修の実施
有り・無し（いずれかに○）